

## 令和3年度 第2回美術館運営協議会会議録

- 1 日 時 令和4年3月8日(火)  
午前10時30分～午前11時40分
- 2 開催場所 豊田市小坂本町8丁目5番地1 豊田市美術館 講堂
- 3 出席者 [委員]  
井上 瞳 栗田 秀法 塚本 哲也 玉田 宏美  
杉村 圭介 平野 敬一 大杉 達一郎 中井 久美  
中根 理 木下 翔 (以上10名)

### [事務局]

高橋 秀治 田境 志保 北谷 正雄 塚田 恵理子  
小川 滉一 (以上5名)

### 4 会議の経過

館長あいさつ、1名の傍聴を許可の後、職務代理の井上委員が議事録署名人として、井上委員自らを含む2名(大杉委員)を指名した。続いて、令和3年度の実績を報告した後、各委員より意見を聴取した。

### 5 会議内容

事務局：

令和3年度開催展覧会の実績報告について

資料1によりモンドリアン展 純粋な絵画をもとめて(以下、「モンドリアン展」)、資料2によりホー・ツーニエン 百鬼夜行(以下、「ホー・ツーニエン展」)の実績について説明

議長：説明が終わりましたので、皆さんからのご意見やご質問をお聞きしたい。

委員：

モンドリアン展の展示室には解説文が多かった。読むのが大変だった。解説文についてどう考えているか。ホー・ツーニエン展は何度も見に来たが怖さが克服できなかった。私の子どもは、ホー・ツーニエン展のコンセプトデザート「お前の目玉」を楽しんでいた。

事務局：

モンドリアン展は、〈コンポジション〉に至るまでの作風の変遷をたどる展覧会だったため、来館者の理解が深まるよう解説を多く掲示した。また、巡回館と検討した結果の解説文の数量となっている。展覧会の内容によって解説文の量のバランスを考えている。

議長：解説文も含めての展覧会と受け取ると良いと思う。

委員：

ホー・ツーニエン展では、怖くて泣きだす子どもを見かけた。親が来館しやすいように託児所の開設が必要ではないか。アンケートで、展覧会に満足したと回答した者が何に満足したかの結果があれば、次の展覧会の参考にできる。また、多くの来館者がインターネットをきっかけに来館している、うまく活用するように。ホー・ツーニエン展では図録の販売開始が遅かった。開幕日から販売すればさらに売り上げを伸ばせると思う。オンライン配信のアーカイブ視聴が3,000回を超えている。視聴者に特典を出すなどして、来館に繋げると良い。豊田市美術館ウェブサイトではアーカイブされた動画が分かりづらい場所にあるため、改善が必要だ。

議長：アンケートにおいて、満足した内容を収集しているか。

事務局：

満足した内容が、自由記述欄に記載があれば、参考にしている。

委員：

来館者の約20%が若年層。モンドリアン展におけるまちなかとの連携について、まちなか宣伝会議主催のサポーター店は43店参加し、割引利用実績が78件だった。コロナ禍

で、厳しい結果となった。豊田市美術館の客層と、サポーター店のラインナップが合致していないのであれば、新たな連携方法を検討してもいいのではと思う。この課題検討のために、アンケートの設問に、まちなかを利用したかどうかの設問を入れられるか。また若年層への豊田市美術館の情報発信のために、まちなか宣伝会議 SNS の活用を考えている。

事務局：

アンケートへの設問追加は検討する。SNS に投稿された写真を見ての来館が多い。そのため、モンドリアン展では写真スポットを設置した。

議長：個別に機会を作って話を進めてください。

委員：

コロナ禍においてオンライン、WEB を有効活用し多くの情報を発信できていた。他方、ポスター・チラシの広報効果が高いことに驚いている。中日新聞への有料の出稿数が多いが、そもそも新聞自体の購読者が減少しているため、新聞がきっかけでの来館が少ない。新聞から、SNS やリスティング広告へ広報媒体を移行できないか。若年層の来館割合が多いのでさらに WEB、SNS 発信が必要になっていくと思われる。

事務局：

両展覧会ともに中日新聞社が共催のため出稿が多くなっている。共催に入ってもらうことで、新聞の購読者層へのアピールになる。おかげで、高年層も来館している。様々な媒体を利用してバランスよく広告を出稿していきたい。

委員：

展覧会の質についての総括があってもよい。モンドリアン展は、主催の日報、テレビ愛知の広報は有料か。

事務局：

有料で出稿している。

委員：

広報実績の報告に関して、宣伝的なものとレビュー的なものの区別をした方が良い。  
なぜこの展覧会を開催したかの意義付けになるので、東京の巡回展の広報記事を参考に載せるのもよいだろう。実績報告書には、学芸員の名前を載せた方がよいのではないかと。ホー・ツーニエン展は特定のメッセージがあるわけではないが、戦中を扱っている。外部から反応はあったか。

事務局：

今後、展覧会の学術的面も意識して報告する。年報には、担当学芸員、担当庶務も含め名前を記載している。ホー・ツーニエン展は、特に外部からの意見や問題もなく、穏やかだった。

委員：

美術館駐車場を出発到着地点に設定し、2月末に花見ウォーキングを実施した。ありがとうございます。写生大会は、どんな年齢層が参加したのか。また、開催頻度も知りたい。豊田市民文化会館、新しくできる博物館を含めた文化ゾーンでの写生大会の予定はあるか。

事務局：

写生大会は親子連れが多く、幼児、小学生が参加した。豊田市美術館は写生大会を継続的に開催している。博物館開館後には、連携の調整をする。

委員：

過去は、交流館の主事が研修のため豊田市美術館に行っていた。今後、受入れを再開してほしい。来館の動機としては、豊田市美術館 Twitter、ウェブサイトの影響力が強いようだ。若年層がアンケートにあまり回答しないことを考え、収集枚数を増やすとよい。豊田市駅から豊田市美術館の道中に魅力がない。観覧後、立ち寄れる喫茶店などが充実するとよい。また、博物館ができる際には、案内看板に一体感が出せるとよい。

委員：

モンドリアンの作品は中学校の教科書にも載っている。しかし、中学生以下の来館は3%

と少ない。教員から子どもへ本物の作品を鑑賞しに行くよう促せていなかった。今後、教科書に載るような作家の展覧会があれば学校から子どもたちにPRしていきたい。丸1日使って写生大会を実施することは近年、市内の小中学校ではできない。今後も市や美術館で継続的に写生大会の実施をしていただきたい。

委員：

展覧会を見ていない。報告を聞き、お庭でマルシェに行きたかったと思った。ホー・ツーニエン展は子どもが泣きながら見ていたと聞き、会期中にそのことを聞いていたら無理をしてでも観覧に行った。豊田市美術館の年間パスポート持っている近所の人から、豊田市美術館は他の美術館と比べ敷居が高いと聞いた。足を運びやすくなるとよい。

議長：展覧会、関連事業の情報の届きづらさ、美術館来館の敷居の高さについて、今後も検討していただきたい。

事務局：

次年度開催の展覧会について

資料3により、次年度開催の展覧会について説明

委員：

リヒター展について、収容所を扱った作品での紹介をインターネットで見かけた。画像が怖かった。ポスターはどうなるのか。

事務局：

集客のために、多くの方に受け入れられるポスターとする予定。

委員：

小坂自治区の委員会で、博物館ができて地元へ何かいいことはあるのかという意見が出た。博物館ができる際に、豊田市駅から豊田市美術館への道路の整備、おしゃれな店舗を建てるなど、豊田市美術館からも市の担当へ要望してほしい。

議長：全体を通して又は豊田市美術館の運営全般に関してご意見はあるか。

委員：

美術館と学校との連携というものは、なかなかうまくいかない。まずは校長先生向けに、対話型鑑賞、アートカードを行った研修会を行うのはどうか。先生が体験し、子どもに伝えていくのがよい。10年、20年後に良い教員が育つのではないだろうか。

委員：

わたしの子どもから学校の図工、美術の授業が厳しいと耳にした。美術は心を開放できるものであってほしい。例えば写生大会などで、学校、美術館が連携して美術で心の豊かさも育てられるとよい。

委員：

親が美術に興味がないければ、子どもは興味、きっかけを持たず美術にアクセスできない。そのため、大人への教育も検討しなければならない。ウクライナ危機で物価が高くなる中においても、豊田市美術館は一家で来館する価値があると思わせられる展覧会、教育普及、啓発活動を進めてほしい。期待している。

議長：これを持って議事を終了する。